2016 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	人文科学研究所
評価基準２	教育研究組織
点検・評価項目(1)	2-1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
評価の視点	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
点検・評価項目(2)	2-2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

2-1	人文科学に関する学術の研究およびこれに関する諸事業を行い、研究成果の社会へ還元することを目的に、平成 2 年文学部内に設置された機関であり、この理念は本学のまた文学部のそれぞれの理念・目的に適合する。 研究員体制においては、文学部専任教員（専任研究員）以外にも、文学部以外の本学専任教員(兼担研究員)、本学の専任教員以外(兼任研究員)、国外の大学および研究機関所属者(客員研究員)が制度化されており、現在研究員は、専任 19、兼担１、兼任 50 名、計 70 名にのぼる。ただ、派遣に予算措置が伴う客員研究員については運用が困難で不在状況が続いている。 学術の進展への寄与については、研究成果を紀要『人文科学』と研究班の研究報告書を刊行するほかに、研究報告会を開催し各研究班が二箇年の研究期間中に口頭発表している。また、ゲストスピーカーを招いて共同研究体制に関する情報や意見の交換を行う座談会も開催している。 社会の要請との適合性では、研究成果刊行物を全国諸機関に寄贈しているほか、刊行物の電子化も併せて行っている。また、現研究班の研究課題に関連する内容での講演講習等の要請があった場合、予算措置上、板橋区内に限らざるをえないが、時間調整をしたうえで研究班が出張し無償で応じる体制も整備した。
2-2	研究班の継続変更等、研究組織に関わる事項は、「大東文化大学人文科学研究所規程」及び「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」等に従って、所長と各研究班代表となる専任研究員で構成する研究部会、さらに学部長・研究科委員長、学科主任・所長等で構成する運営委員会で審議し、教授会での協議ないし報告を行っており、研究員はもとより文学部構成員間で検証できる体制が健全に機能している。

【効果が上がっている事項】

2-1	研究成果を公刊する紀要『人文科学』と研究班の研究報告書は毎年滞りなく刊行し、後者については 2015 年度こそ直前に発行を辞退した班があって予算を余したが、通常は削減された予算に対して、発行件数を維持できるよう紙質を下げる等の工夫で対処している。 12 年度から外部資金獲得の申請を行える共同研究班体制への改善を目標に、ゲストスピーカーを招いた座談会の開催や、予算配分の改革を実施し、研究班の中から、共同研究で科学研究費補助金申請を 2013 年度に１件、2014 年度に１件、2015 年度に２件が行うにいたり、2015 年度の申請１件は採択に至っている。
2-2	

【改善すべき事項】

2-1	
2-2	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A2-5　　大東文化大学人文科学研究所規程

B2-3　　大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動）

http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html　≪既出≫B1-16

B2-4　　「大東文化大学将来基本計画 DAITO VISION 2023」　≪既出≫B1-1

「大東文化大学人文科学研究所規程」、「人文科学研究所業務運営に関する確認・合意事項」、「人文科学研究所所報」、研究部会議事録、運営委員会議事録

〔追加資料〕

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価

				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	学部附置研究所としての理念・目的との適合性、学術の進展や社会の要請との適合性について、研究部会・運営委員会等で点検する。	研究部会議事録、運営委員会議事録	→			A		
14 年度目標			→					
			→					
			→					
15 年度目標	研究報告会、研究紀要や研究報告書の刊行形態、人文科学研究所所報の形態、また座談会のありかたについて、理念・目的との適合性、学術の進展や社会の要請との適合性の観点から研究部会・運営委員会で協議し点検する。	研究部会議事録、運営委員会議事録			A			
16 年度目標	冊子形態を改め、ホームページ上に掲載することとして人文科学研究所所報の新形態について、理念・目的との適合性、学術の進展や社会の要請との適合性の観点から研究部会で点検する。					B		